

令和2年1月31日及び2月2日に実施した真備緊急治水対策プロジェクト事業進捗等説明会における主な質問

質問	回答
○南山付近の川幅が狭いように見えますが問題ないのでしょうか。	●平成30年7月豪雨と同様の豪雨が生じた場合でも、洪水を安全に流下させることができるよう設計しています。なお、最も狭いところでも川幅は135mを確保します。
○堤防の拡幅に合わせて樋門も改修されるのでしょうか。	●堤防を拡幅することによる樋門への影響調査を令和2年度にかけて進めていきます。調査の結果については、またお知らせします。
○現在工事が進んでいる箇所以外は矢板を設置されないのでしょうか。	●現在川辺地区で実施している矢板の設置は、基盤漏水による堤防の不安定化を防ぐことを目的としています。小田川ではこれまでに多くの箇所で矢板を設置してきました。現時点では今回の箇所以外は予定してませんが、噴砂の状況や実施中の地質調査結果を踏まえて、必要に応じて対策を検討していきます。
○国、県の施工箇所が近接する箇所は、工事用車両の通行経路を統一する等の調整をお願いします。	●できるだけ皆様にご迷惑をおかけしないように、調整に努めます。
○仮に再度H30.7月と同様の豪雨にみまわれた場合には、現段階ではどの程度災害リスクが減っているのでしょうか。	●これまでに様々な対策を実施してきましたが、小田川と高梁川の合流点の付替えが完了しないと、バックウォーターの影響は軽減されません。このため、仮に再度平成30年7月豪雨と同様の豪雨にみまわれた場合には、越水は依然として生じると推定しています。早目の避難に努めていただくようお願いいたします。
○市主催のWSで検討した防災公園の検討状況を教えてください。	●ワークショップでいただいた意見やアイデアを踏まえて検討を進めています。2月中には方向性を示して皆様の意見を聞く予定です。
○避難情報をもう少し早くくださいませんか。	●上流の水位を確認するなど、国と連携して避難情報を出しています。NHKのdボタンやケーブルテレビでも避難情報をお伝えしています。
○テレビやインターネット以外で水位や被災情報を得られる手段はないのでしょうか。	●今後は国・県・市で開始したLINEなども活用し情報提供を行っていきます。
○用水・排水機場のポンプは洪水時には止めるのでしょうか。	●小田川の水位が上昇し、小田川が氾濫する恐れがあれば止める基準になっています。
○排水ポンプの発電機等、確実に運転できるような状況になっているのでしょうか。	●市の排水ポンプ車の運用に加え国のポンプ車の応援等、臨機に対応できるよう手配しています。
○新成羽川ダムの事前放流の取組状況について教えてください。	●事前放流については昨年運用を開始され、R1年には事前放流を2回実施されています。

※広く一般に知っていただきたい内容のみを掲載させていただいており、説明資料の記載内容と重複する質問や個別具体的な詳細な内容に関わる質問は掲載しておりません。